わだちとわ

NARA COLLEGE of ARTS
2022
轍と輪

奈良芸術短期大学 広報誌「わだちとわ」VOL.09
発行／奈良芸術短期大学
企画編集／広報課　デザイン・印刷／グラフトデザイン事務所　発行日／2022年3月20日

VOL.09
2022.03



編集後記

さまざまなお仕事に就いている卒業生の取材に行き、お話を聞く中で共通する言葉が二つあります。それは、「やりたいことを諦めない」「続ける」という言葉です。大学や就職先を決める際に、自分の「やりたい！」という気持ちに正直になり、自分で歩んで行くことや、簡単そうで難しい、選んだ道を「やり続ける」ことの大切さを卒業生たちはこれからこの道に来る後輩たちへのアドバイスとして贈ってくれています。

広報課では、学生や卒業生の活躍を紹介し、さまざまなところへ繋げて行きたいと考えています。皆様の活躍の報告を楽しみにしています。

定期購読サービスご利用案内

卒業生の“今まで”と、在学生の“これから”を軸とし、1つの輪として展開する「わだちとわ」（年2回発行）の定期購読をご希望の方は、送付先を広報課までご連絡ください。また、「わだちとわ」では卒業生の受賞や活動報告なども募集しています。

美術科
- 洋画
- 日本画
- デザイン
  - ・グラフィックデザイン
  - ・メディアデザイン
  - ・イラストレーション
- 陶芸
- 染織
- クラフトデザイン
  - ・メタル
  - ・テキスタイル
  - ・ウッド
  - ・ガラス
  - ・ジュエリー
  - ・レザー

専攻科

学内見学や相談は、オープンキャンパスや行事以外でもお気軽に広報課までご連絡ください。
〒634-0063 奈良県橿原市久米町222　TEL.0744-27-0625　E-mail. nyushi@naragei.ac.jp

詳しくはHPへ　奈良芸
www.naragei.ac.jp

日本画コース

卒業生 × 在学生

奈良芸で交差する素敵な巡り会いを、それぞれの未来へつなげてください。



在学生／岡田 華奈さん
（大阪府出身）
日本画コース２回生



卒業生／伊藤 美沙さん
（愛知県出身）
2021年3月 日本画コース卒業
現在、奈良県内中学校美術講師、イラストレーター、切り絵作家



在学生／河内 瑠那さん
（熊本県出身）
日本画コース２回生

落ち着いた雰囲気で学べる環境。

河内　早速、お聞きしてもいいですか。

伊藤　どうぞ、どうぞ。（笑）

河内　初めにお聞きしたいのは、奈良芸に入学した理由なんです。教えていただけますか。

伊藤　はい。一度社会に出て介護福祉士として働きながら作家活動をしていたのですが、入所施設で定期的にアート活動を行う内に、教員として美術を教えるということを勉強してみたくなったので、オープンキャンパスに参加しました。そこで真剣に制作に取り組み、作品と真面目に向き合う学生の姿に好感が持てました。また、広々とした制作スペースやキャンパスの雰囲気、立地などを踏まえて落ち着いて学べる環境があると感じたので受験することを決めました。ちょうどその頃、独学での学びに限界を感じていたこともあり奈良芸で学ぶことができて本当によかったです。

岡田　日本画を選ばれた理由はなんですか。

伊藤　これまで美術館や画集でさまざまな作品に触れてきた中で、墨に興味があって歴史的な絵画を勉強したいと感じていたからです。ただ、奈良芸に入学して初めて日本画の岩絵具を触ったんですよ。歴史や文化のある奈良で日本画を学べて良かったと思っています。お二人はどうして日本画を学ぼうと思ったんですか。

岡田　高校が芸術系の学校で、２年生から日本画を学ぶ機会があったんです。私は絵を描く時に線と色を使って表現するのが好きだったので日本画を学ぼうと思いました。

伊藤　そうなんですね。河内さんはどうして日本画を学ぼうと思ったんですか。

河内　中学生の頃から絵を描くのが好きだったのですが歴史も好きで、教科書の歴史上の人物はどんな画材で描かれているんだろうって疑問に思ったんです。それで調べてみたら岩絵具だとわかったので、よし！日本画を学ぼうって思いました。

伊藤　フランシスコ・ザビエルの絵は岩絵具なんですよ。

河内　そうなんですか！

伊藤　当時の絵師達が、岩絵具を使って西洋の描き方を真似て立体感を出して描いた絵なんですよ。

中学校美術講師と作家活動の両立。

河内　伊藤さんは中学校で美術講師をされていますが、イラストレーターや切り絵作家としても活動されていますよね、両立は大変ではないですか。

伊藤　一つのことだけに取り組むことが得意ではなくて、全然違うことを色々としている方が私の場合は楽なんです。それから切り絵が面白いのは、紙を切ることで予測しない魅力的な線やカタチが表れることです。その瞬間がたまらなく好きで、やめられなくなっている感じです。（笑）

河内　美術講師の魅力ややりがいって何ですか。

伊藤　美術に苦手意識がある生徒が、少しずつ変化して授業中にイキイキしていく姿を見た時にやりがいを感じますね。どうしても周りと比較してしまって、完璧にこなさないとって思ってしまっていると思うんです。なので「こうじゃなきゃダメ」っていう指導はしないようにしています。すると、あっ！こんなことしていいんだ、あんなこともしていいんだ、という風に少しずつ安心して表情が緩んでいくのが目に見えてわかるので、やっぱり美術はいいなって思いますね。

岡田　作家としては今後どのように活動される予定ですか。

伊藤　イラストレーションだけでなく、自分の作品をもっとつくっていきたいですし、近いうちに造形教室を開きたいと思っています。お二人は卒業後どうされるんですか。

自分次第でどんどん楽しくなる。

岡田　卒業後は作家活動をしたいと思っています。２回生になって進路を考えた時に、これからの人生は自分で決めないと進まないって思ったんです。なので進路を考えることとは自分にとって凄く大きなことですが、後悔のない選択をしたいと思っています。作家活動をするにあたり、アドバイスをいただきたいのですが、依頼を受けて作品づくりをする際、自分の意図しない注文があった場合、どのように向き合っていますか。

伊藤　自分が納得できる独自の作品は、それはそれでつくればいいと思います。オーダーされてつくる作品には制限があるんですが、それも面白いんです。注文される方は自分の作品を見て気に入ってくださった方で、オーダーではどんな作品が完成するんだろうって楽しみにしてくれていると思うので、楽しんだらいいと思いますよ。

河内　私は、中学校美術教諭の資格を取得するために教職課程を履修しているので、美術教諭をしながら作家活動ができたらいいなと思っていますが、先ずは専攻科に進学します。



伊藤さんの作品



日本画コースの教室



在学時の伊藤さん

伊藤　いいですね。先生をしていると何百通りというパターンの作品が提出されるので、アイデアの宝庫ですよ。（笑）あり得ないと思う発想がいっぱいで勉強になります。それと、私は美術科の２年で卒業しましたが専攻科に進学したかったですね。やっぱり大きな作品を描く経験は大学でないとなかなかできないですからね。なんとなく描けるサイズじゃないですよ。頑張ってくださいね。

ジャンルレスに生きる。

伊藤　美大進学を志す中高生のみんなには、自分のスタイルや得意分野を先に決めようと思わず、今、自分は何がやりたいのか、何に興味があるのかということに向き合ってほしいです。どうあるべきかということは考えず、ジャンルレスに生きてください。

陶芸コース卒業

佐藤 亜矢

Sato Aya

未経験だからこそ、新鮮で楽しかったです。



先生の優しさに触れ、入学を決める。

中学生の頃から美大へ進学したいと考えていました。ただ、絵をたくさん描いていたわけではなく、どちらかいうと絵を描くよりモノづくりに興味がありました。陶芸家の親戚がいた影響もあったのかもしれません。奈良芸の6コース全部に興味はありましたが、陶芸コースのオープンキャンパスに参加しました。その時のことはよく覚えています。とにかく先生が優しくて丁寧に指導してくださいました。その先生が、今もコース主任をされている大塩先生なんですが、先生の指導のもと初めて陶芸に触れ、作品づくりをした時に感じたワクワク感や達成感は忘れられなかったです。そして、奈良芸は少人数制のため日常的にこのようなマンツーマン指導を受けられることが、未経験の自分にとって心強かったので、奈良芸で学びたいと思うようになり受験することを決めました。

夜通し薪をくべた穴窯は、本当に良い思い出。

1回生では、陶芸の基礎である土づくりや道具づくり、ロクロ成形などを学び湯呑みや花瓶などを制作しました。そんな中でも、入学して早々にコースのみんなで輪になって行った「土踏み」は衝撃でした。2回生になると基礎を土台に表現力を高め、大物制作や古典技法、オリジナルの釉薬作成、穴窯などさまざまな技法を学び習得していきました。「穴窯」では、もの凄い熱気が焚口や煙突から放出される中、小さな温度変化に気を配りながら夜通し薪をくべました。これは本当に貴重な体験だったと思います。更に、窯から出てきた作品は想像とは違った色や質感で、思い通りにいかない面白さも学べました。その夜、自分たちで買い出しに出かけ調理して食べたカレーは最高に美味しかったですね。キャンプみたいでしたよ。(笑) 翌朝は先生がおにぎりを用意してくれていました。



土踏み



穴窯

学びが活かせる仕事に就く。

2回生になると奈良芸での学びを活かすことができる職業に就きたいと思い、夏休みを利用して今の会社でアルバイトとして働かせていただきました。その時、大学で学んでいるので慣れるのが早いねと言ってくださったのを覚えています。幼い頃から窯出し市に行っていたこともあって馴染みがありましたし、現場での製造作業に携わりたいと考えていたので就職を決めました。今は、型から出てきた土鍋の胴の部分を削ったり、取っ手をつける耳付けという作業を任されています。季節や日によって土の状態が変化したり、削りや取っ手のカタチを揃えてつくらなければいけない難しさがありますが、一歩ずつ成長していく自分や、出来上がった商品が店頭に並んでいるのを見かけた時にやりがいを感じます。また、人が生活するうえで欠かせない「食」と深く関わっているところにこの仕事の魅力を感じています。

未経験から学べる環境がある。

私は未経験で陶芸コースに入学しました。勉強してみたいという気持ちだけでしたね。初めて学ぶことばかりなので、いつも新鮮で楽しかったですよ。奈良芸は私のような学生を受け入れてくれる環境や学びがあるんだと思います。学びたいと思うことは、勉強した方が良いと思っています。









国登録有形文化財の16連房旧登り窯

Profile
佐藤 亜矢さん

三重県出身
2020年　陶芸コース卒業
現在、長谷製陶株式会社勤務

長谷製陶株式会社
https://www.igamono.co.jp/

長谷園
SINCE 1832



やる気さえあれば、
自分の強みは見つけられる。
大学とはそういう場所です。





自らメディア（素材）を選択できるコース。

幼い頃から絵を描くのが好きで高校では絵画クラスを専攻していたので、美大進学は自然な流れだったと思います。ただ、絵を描き続けるのか、さまざまな素材を使って表現するのかということで迷っていました。そんな時、奈良芸のクラフトデザインコースはウッドやガラス、ジュエリーといった６つのメディア（素材）から２つを選択することができ、ゼロからのスタートでも学べることを知ったので、表現の幅を広げてみたいと感じ受験することを決めました。

自由な発想力が身につく。

入学後はガラスメディアとテキスタイルメディアを選択し、主にステンドグラス技法を用いた造形物の表現方法や、布の染め方や織り方など基本的な繊維を扱った表現方法を学びました。奈良芸は少人数制のため先生との距離が近く何でも話せたり相談できる環境がありました。そのため、ゼロからのスタートでもさまざまな方法で素材を扱い表現させてもらうことができたので、自由な発想力を身に着けられました。ガラスとテキスタイルは平面的な素材だと思っていましたが、どちらも色鮮やかで空間を感じる素材でした。

専攻科進学か他大学への編入学か。

１回生の終わり頃になると進路を考えるようになり、奈良芸の専攻科への進学か他の四年制大学への編入学かで悩むようになりました。そんな時、それぞれの展覧会を見に行く機会があり、作品を見比べることができました。その時、奈良芸の先輩方の作品は四年制大学の作品に一切引けを取らずに素晴らしい作品であると感じたことと、奈良芸の学びの環境がやっぱり良かったと感じたので専攻科への進学を決めました。

ステンドグラスに魅了される。

ガラスを扱っていく内に、光という触れることができないモノに色をつけて、それを飾った空間までをも彩れるステンドグラスという精密かつ迫力のある技法に魅了されていきました。私は器用な人間ではないのですが、自分の好きなことに取り組んでいくうちに『好きなこと』が『得意なこと』に変わりました。その得意なことで誰かの人生が少しでも前向きになるきっかけになれたらいいなと思い、ステンドグラスで人と関わる仕事をしたいと思うようになりました。





自分にしかできないことを伸ばす。

入社のきっかけは、奈良芸の研修旅行で黒壁スクエアを訪れたことです。主にステンドグラス製品の制作と販売、体験教室の講師スタッフを勤めています。観光地の中のガラス工房なのでお客様との距離が凄く近いです。興味がある方やフラッと立ち寄られる方などさまざまですが、ガラスの魅力に触れて好きになっていただけたり、直接お声を聞くことができるので、つくり手としてはやりがいや成長を感じやすい環境だと思います。これからも自分にしかできないことを伸ばしていきたいと思っています。

大学は自分の強みを見つける場所。

奈良芸には同じような感性や感覚を持った学生がいます。同じ世代で同じように好きなことを学ぶ学生がいたからこそ、自分の感性や作品づくりに対する向き合い方など、自分の強みを知ることができました。進路選択の中でいろいろと考えて不安になってしまったり、自信を失いかけていたとしても、やる気があれば大丈夫です。大学という貴重な環境と時間の中で自分の強みを見つけて、自信をつけて欲しいです。諦めずに好きなことに取り組んでください。



（左）熊切 彩美さん
静岡県出身
2021年　クラフトデザインコース卒業
吹きガラス工房在籍

（右）坂井 克己さん
大阪府出身
2018年　クラフトデザインコース卒業
ステンドグラス工房在籍



Profile
岸本 望さん

奈良県出身
2015年　クラフトデザインコース卒業
2017年　専攻科／クラフトデザイン修了
現在、株式会社黒壁勤務
ステンドグラス工房在籍

黒壁公式HP
https://www.kurokabe.co.jp/



専攻科／クラフトデザイン修了

岸本 望

Kishimoto Nozomi








王寺北小学校閉校カミングデイ

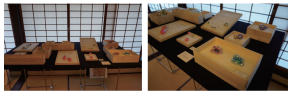
春日表参道 SUN DAYS PARK

子ども達とライブペイント!

産官学連携などを行っているデザイン広報サークルが地域や企業、学校からの依頼を受け子供たちと描く参加型ライブペイントを実施しました。完成した作品は、一部をくり抜き顔ハメパネルになりフォトスポットとして活用されました。

日本遺産で作品展！

奈良・町家の芸術祭はならあとの八木・札の辻エリアに今年も参加しました。会場は日本遺産にもなっている日本最古の国道交差点と言われる場所に建つ旧旅籠の「八木札の辻交流館」。そこで、専攻科／クラフトデザイン、専攻科／デザインの作品展を開催しました。夜には障子マッピングが行われました。


おっと！奈良芸

奈良芸の日常を動画でお届けする「おっと!奈良芸」学内で開催された「【見習い】MEDIA WIZARDS 2」を広報課の菊地さんがリポートします。



紫苑祭（大学祭）、オンライン作品展を開催！

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、紫苑祭を一般公開せずに入場制限を設けての開催となりました。そして、学生の想いが詰まった作品を観ていただきたいという思いから、作品展はオンラインで公開しました。














陶芸コース



進級制作展!

本学聖心会館ギャラリーで2021年10月下旬に陶芸コース進級制作展が開催されました。



穴窯!

2年に一度実施される穴窯焼成。一週間前から薪づくりを始め、約40点の作品をコース全員の連携プレイで焼き上げました。



黒陶制作!

いつもの窯と違う窯を使い、粘土で窯を塞ぎ松の葉で燻されてできた黒陶ならではの作品の焼き上がりに、学生から「かっこいい!」という声が上がりました。



W受賞と2年連続の大賞受賞!

デザインコース卒業生の柴田ケイコさんの絵本「パンどろぼうvsにせパンどろぼう」が第2回TSUTAYAえほん大賞と第5回未来屋えほん大賞を受賞しました。また、TSUTAYAえほん大賞は前回の「パンどろぼう」での大賞受賞に続き、2年連続の大賞受賞となりました。

SDGs 環境フェスティバル!

親子で楽しみながらSDGsを学べるイベントで使用される「いきものスタンプ」の制作と間伐材を使ったワークショップのお手伝いをデザイン広報サークルが行いました。また、間伐材サイクルの仕組みを描いたイラストも制作しました。







高山竹あかり!

竹製品の里奈良県生駒市の高山で開催された「第25回高山竹あかり」今回は奈良県立大学の学生がコンセプトを提案し、産官学連携として本学デザイン広報サークルの学生が、ポスターとパンフレットのビジュアルデザインを担当するといった新しい試みも行われました。また、当日にはボランティアとしても参加し、幻想的なイベントを盛り上げました。





特別講座!

先生方の制作プロセスや視点、大切にしていることなどを聞かせていただいたり、学生一人ひとりの作品についてアドバイスをいただきました。憧れの先生からの指導に学生たちのモチベーションもグンっ!と上がりました。



井隼 慶人先生(染織コース)



竹内 浩一先生(日本画コース)

明日香村写生と写生展!

日本画コースでは、例年10月後半に三重県答志島へスケッチ旅行に行きますが、今年はコロナ禍のため遠出はせず、本学近くの明日香村へスケッチに行きました。3日間しっかり写生し、後日「二回生明日香写生展」を開催しました。



受賞・入選!

・革コン2021で2年連続最優秀賞!



最優秀賞:
村島 未紗(専攻科/クラフトデザイン1回生)

佳作賞:植木 悠元(専攻科/クラフトデザイン1回生)
:丸山 栞那(クラフトデザインコース2回生)

・富山デザインフェア2021
「パッケージデザインコンペティション」で入賞!



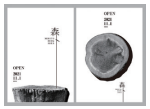
特別賞:チューリップ賞:
山上かの(デザインコース1回生)

・第12回写真コンテスト「飛鳥の木」で受賞!



正五位 若手部門 若草賞:
石川 佳介(専攻科/デザイン2回生)

・日本タイポグラフィ年鑑2022入選!



入選:小松 英明
(専攻科/デザイン2回生)



入選:山本 美也花
(デザインコースGD2回生)

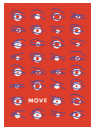


入選:水口 詩乃
(デザインコースGD2回生)

・JAGDA国際学生ポスターアワード2021入選!



入選:大川 桃子
(デザインコースGD2回生)



入選:奥田 流那
(デザインコースGD2回生)

・イタリア、スペインのコンペで入選!
入選:林 茜(クラフトデザインコース卒業生)



Gioielli in
Fermento2021
(イタリア)



ARTE Y JOYA
(スペイン)